



北海道立羽幌病院

総合診療 家庭医療 専門研修プログラム



専攻医募集案内

(2021年度募集：2022年4月専攻開始)



地域を「みる（診る・看る・観る）」 ことができる総合診療医を養成する

院長より



院長 阿部 昌彦

訪問診療、施設回診、出張診療、離島応援、地域連携室と共に多職種での前方連携、後方連携。当院では多くの体験と振り返り、気づき、学びが可能です。また、医学的には日々のcommon diseaseの振り返りや、時にドクターGの臨床推論が必要な症例の検討会、ネットでの早朝勉強会など組織での学習と知識の共有、アップデートを行い集団知を高めることを目標とします。（厳しくもある）恵まれた自然環境での勤務、北海道職員としての安定した処遇、福利厚生、医師同士の協調によるライフワークバランスの良さも魅力です。

日本内科学会 総合内科専門医・指導医 総合診療領域特任指導医
日本循環器病学会 循環器専門医・指導医
旭川医科大学臨床教授 (前) 自治医科大学臨床教授 (地域担当)

指導医

佐々尾 航

(2021年4月現在)

(プログラム責任者)

日本プライマリ・ケア連合学会認定医・指導医 学会北海道ブロック支部副支部長
日本内科学会 総合内科専門医・指導医
日本消化器病学会消化器病専門医 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医
自治医科大学臨床講師 (地域担当) 自治医科大学消化器内科非常勤医員

研修の特徴

① 急性期医療から回復期医療、在宅医療まで



急性期病院の病院総合医研修（救急・病棟）と、外来・在宅医療を中心とした家庭医療研修をバランスよく行えます。離島診療支援も行います。

② 地域密着型の多職種協働（IPW）が充実



地域密着型病院の院内多職種協働研修を主体に、さらには地域における多職種協働も学ぶことが可能です。

③ 充実した指導体制



総合内科専門医2名・循環器・消化器専門医などが在籍しています。志望する領域に応じた技術（内視鏡や心エコーなど）も修得できます。

④ 病院独自の取組で地域に貢献



健康出前講座やフレイル外来、キッズセミナーをはじめ、病院独自の取組を行っており、健康増進、予防医療など地域に貢献できます。

⑤ 診療と学びのバランスが取れた環境



症例は豊富にあっても忙しすぎず、十分な学習の時間があります。症例をじっくりと考え、深めることが可能です。

⑥ 主治医制＋夜間・休日当番制



日中は主治医として担当し、時間外は当直医や待機医師に任せ休むことが可能で、オンとオフがはっきりしています。週末は月2回完全オフです。

⑦ 公務員として安定して身分と福利厚生

当院での勤務は、北海道職員の正職員となり、給与や身分は安定しています。

⑧ 地域枠と好相性

地域枠の方は勤務地が限られ研修先が決めにくいこともありますが、当院は地域勤務期間での勤務可能な医療機関となっています。



【道立羽幌病院総合診療専門研修プログラム紹介動画（Youtube）】

2020年6月に作成した2021年度専攻医応募用の動画です（学会向けに作成したものです）。大きな変更はありませんので、参考にしてください。

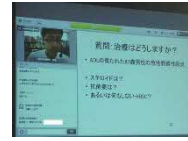
研修目標

- ① 子供から大人までの健康問題に対して、継続的な対応をすることができる
- ② 予防医療から、急性期、回復期、在宅医療、緩和ケアなど幅広い対応ができる
- ③ 地域特有の健康課題を抽出し、それに対するアプローチを考え行動することができる
- ④ 地域包括ケアにおける医療機関・医師としての役割を理解し、実践することができる
- ⑤ 医師として生涯学習に取り組むことができる
- ⑥ 医学生や研修医など、後進の育成に取り組むことができる

研修の1週間



宿直中に来院した患者さんについて宿直医師が症例提示を行います。悩ましい症例も相談して対応します。宿直医師以外でも有志が参加します。



テレビ会議を用いた札幌医大主催のレクチャーや症例共有会です。全国600近い施設が参加します。ときには発表者になることも！？



病棟は2チームに分かれています。各チームで朝の回診を行います。チーム内で情報共有し、お互いに補完しながら診療にあたります。



研修医がいる期間は、研修医向けのレクチャーを行なっています。専攻医もレクチャーを担当するほか、他の医師のものも聴講して学べます。

	月	火	水	木	金	週末
7:30	研修医レクチャー		インターネット学習会 (自主参加)		研修医レクチャー	
8:00	救急外来患者・新規入院患者プレゼン (当直の場合)					
8:15	病棟チーム朝回診					
8:30	指導医との入院患者ミニカンファ					
9:00	救急当番 病棟当番	一般外来	一般外来	予約外来	フリー	病棟回診 月1回の当番の時のみ全入院患者の回診を担当します。また月1回の待機(日曜日の夕方に羽幌に戻る)があります。当番や待機以外は、原則フリーです。
13:00						
14:00		巡回・訪問診療	病棟業務	一般外来		
15:30			多職種カンファ			
16:30	病棟夕回診 (主治医ごと)					
17:00	医局勉強会					
				宿直		

救急車の対応をします。病棟での急変対応も行います。



医局内で症例検討、日々の疑問の学習の発表学会発表の予行などを行います



病院から離れた無医地区の公民館で出張診療します。施設や在宅の方の出張診療も行います

外来は、週1コマの予約外来 週3コマの予約外外来程度を行います。外来後には、指導医と振り返ります

入院患者について、院内の多職種でカンファを行い、診療内容の協議、退院後の方向性を踏まえ対策を出し合います。

宿直明けは、業務の配慮をします可能な限り終日、難しい場合でも午後は、業務のdutyがないようにしています
*有給休暇を取得して休むことが可能です (医師の人数により業務をお願いすることがあります)

宿直は、平均で1回1.1人程度の患者対応で、想像よりは過度な負担ではありません。救急車は24時間で平均1台以下で、来ない宿直の方が多くなっています。(宿直は当直代のほか、患者対応に応じて時間外手当を支給)



ほぼ時間内に業務を終えることができます。業務に慣れると、日中にも十分な時間ができます。適宜空いた時間で、院長による身体診察指導や検査手技の指導などを受けることができます。ポートフォリオ整理や学習など自己研鑽の時間も十分にありま。月に1~3名初期研修医や学生が来院するため、その指導にあたってもらいます。

Wolters Kluwer

UpToDate®



「UpToDate」や「DynaMed」を病院で契約しており使用できます

研修における学び方

学ぶ場面はおもに以下の3つの場面です。

指導医が教育・指導に積極的に関わりますが、初期研修と異なり、専門研修ではよりレベルアップした学ぶ姿勢が必要です。日々の診療にあたりと同時に、ワークライフバランスを保ちつつも自己研鑽を欠かさないようにしましょう。それぞれの学び方をマスターして、生涯学習の基盤となることを目標にします。

① 臨床現場での学習

☆職務を通じた学習（On-the-job training）を基盤とします。

診療経験から生じる疑問に対して知識を収集するほか、経験を省察して能力向上を図ります

☆場面ごとの学習

- ・ 外来医療：外来診療後の症例プレゼンやカルテチェックにより、症例振り返りを行います
- ・ 在宅医療：訪問診療や特別養護老人ホーム医務室への従事により経験を積みます
- ・ 病棟医療：入院患者を担当し、フィードバックの回診や多職種との病棟カンファレンス等を通じて、診断・検査・治療・退院支援・地域連携のプロセスに関する理解を深めます
- ・ 救急医療：救急車対応や宿直を通じて経験を積みます
宿直明けには来院患者の症例提示を行うことなどによりフィードバックを受けます
- ・ 地域ケア：さまざまな地域の多職種とのカンファレンスへの参加や、予防活動、地域の医療機関との連携などを通じて、地域包括ケアシステムを学びます

② 臨床現場を離れた学習

☆日本プライマリ・ケア連合学会を中心とした、総合診療や家庭医療に関連する学術集会、セミナー研修会に積極的に参加することで、総合診療・家庭医療の様々な理論やモデル等を学習します

☆医療倫理、医療安全、感染対策、保健活動、地域医療活動等については、日本専門医機構の認定する講演会（e-learningもあり）に参加すること等を通じて学びます

③ 自己学習

☆経験を十分に得られない部分については、日本プライマリ・ケア連合学会等の学会におけるe-learningの活用や研修会への参加、医学書や医学雑誌などの活用して学習します

☆当院では「UpToDate」「Dynamed」を利用することが可能です

年間予定

月	行事予定
4月	研修開始 新専攻医オリエンテーション
5月	日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 参加
6月	日本プライマリ・ケア連合学会地方会 参加（2年次以降発表）
7月	総合診療専門医試験・家庭医療専門医試験（予定）（修了後） プログラム参加者全体カンファレンス①
9月	研修手帳中間確認
10月	次年度専攻医募集開始（時期は日本専門医機構からの正式通知によります）
11月	北海道プライマリ・ケアフォーラム 参加
12月	キッズセミナー プログラム参加者全体カンファレンス② 日本プライマリ・ケア連合学会次年度学術大会演題公募
3月	院内研修会における発表 研修手帳提出



* 研修修了には日本専門医機構の定める要件として、学会または論文の発表が必要となっており、日本プライマリ・ケア連合学会または日本内科学会の地方会での発表を想定しています

* 研修医の支援を、日本プライマリ・ケア連合学会北海道ブロック支部でも行われますので、総合診療領域のみの場合でも入会されることを推奨します（未入会でも支援が受けられますが、発表等ができません）

専門研修の流れ

下記は例になります。研修領域の順番は、自治医大卒業生や地域枠医師、専攻医数などにより異なる場合があります。また医療機関名は例示です。

研修期間：総合診療専門研修のみ…3年間
 家庭医療専門研修のみ…3年間
 総合診療専門研修+家庭医療専門研修…4年間（総合診療3年+家庭医療1年）

① 総合診療専門研修のみ

1年次	総合診療Ⅰ（12ヶ月）		
2年次	内科（12ヶ月）		
3年次	救急（3ヶ月）	小児科（3ヶ月）	総合診療Ⅱ（6ヶ月）

	1年次	2年次	3年次
例①	道立羽幌病院 （総合診療Ⅰ）	道立羽幌病院 （内科）	砂川市立病院 （救急）（小児）（総診Ⅱ）
例②	砂川市立 （救急）（小児）	道立江差 （総診Ⅱ）	留萌市立病院 （内科）
			道立羽幌病院 （総合診療Ⅰ）

上記の領域の研修を、表記の通りの期間行います。
 「総合診療Ⅰ」は道立羽幌病院で行い、一部を道立天売診療所で行うことがあります。
 同じ地域で長く勤務したい場合は、例①のような勤務で基幹施設の道立羽幌病院で経験できます。
 多くの地域を経験したい場合は、例②のような勤務で年度途中で施設を変えながら研修が可能です。

② 総合診療専門研修+家庭医療専門研修 *総合診療専門研修開始時に、家庭医療専門研修にも登録が必要

1年次	救急（3ヶ月）	小児科（3ヶ月）	総合診療Ⅱ（6ヶ月）
2年次	内科（12ヶ月）		
3年次	総合診療Ⅰ（12ヶ月）		
4年次	家庭医療Ⅰ（12ヶ月）		

	1年次	2年次	3年次	4年次
例①	砂川市立病院 （救）（小）（総診Ⅱ）	道立羽幌病院 （内科）	道立羽幌病院 （総合診療Ⅰ・家庭医療Ⅰ）	
例②	市立旭川病院 （内科）	砂川市立 （救）（小）	留萌市立 （総診Ⅱ）	道立羽幌病院 （総合診療Ⅰ・家庭医療Ⅰ）
				自由 （選択研修）

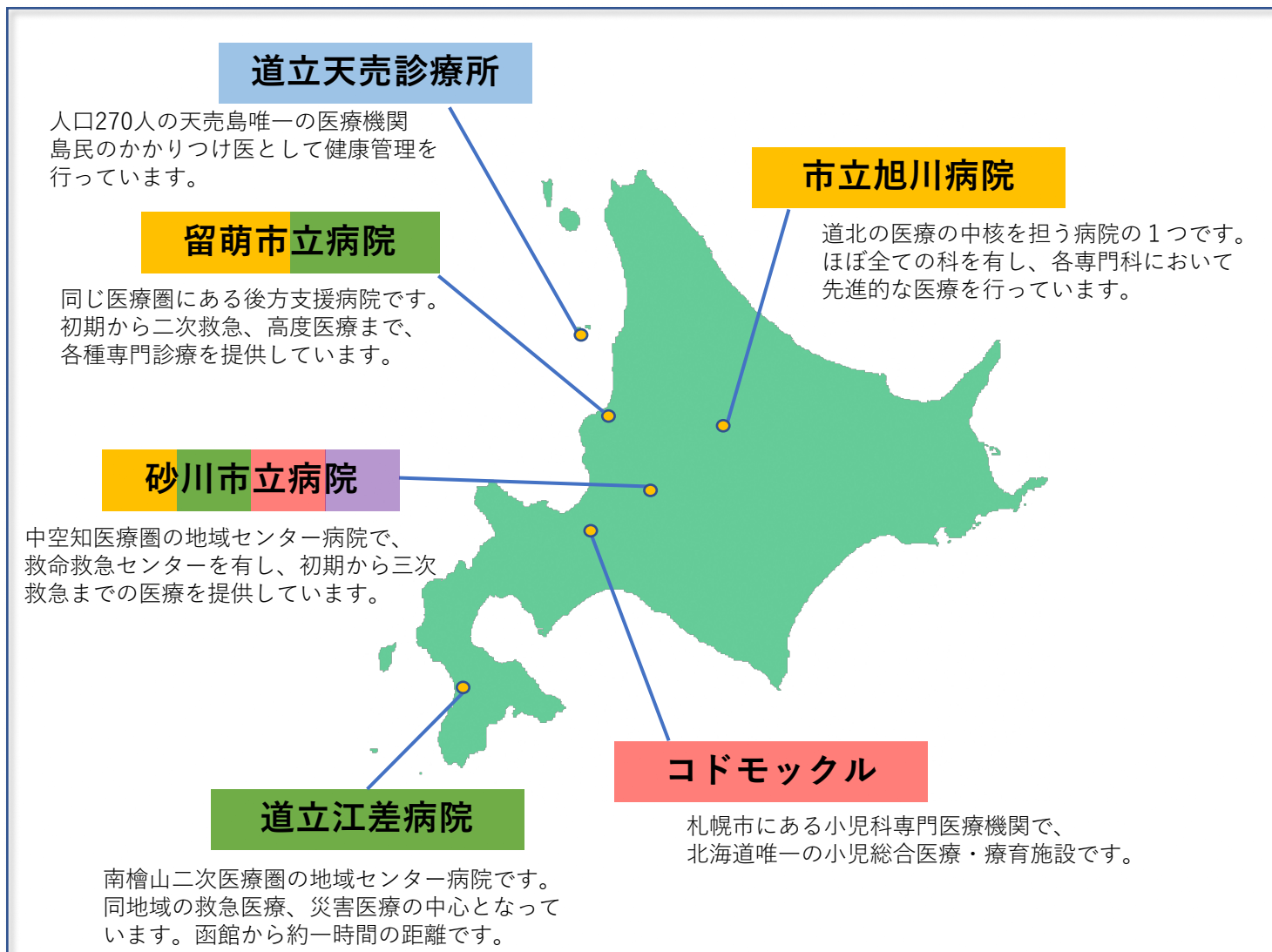
総合診療専門研修をベースに、家庭医療専門研修1年が追加になります。
 「総合診療Ⅰ」と「家庭医療Ⅰ」で合計18ヶ月必要で、同一施設で12ヶ月連続して研修が必要です。
 また、「総合診療（家庭医療）Ⅰ」と「総合診療（家庭医療）Ⅱ」で合計24ヶ月が必要です。
 「総合診療Ⅰ」「家庭医療Ⅰ」は道立羽幌病院で行い、一部を道立天売診療所で行うことがあります。
 例①は「総合診療Ⅰ」と「家庭医療Ⅰ」の合計が24ヶ月で、地域総合診療を重視した例です。
 例②は修了の要件を満たしつつ、4年次の最後に選択研修を6ヶ月とることができます。

③ 家庭医療専門研修のみ

①とおおむね同様で、研修領域・期間も変わりません。（「総合診療Ⅰ」→「家庭医療Ⅰ」「総合診療Ⅱ」→「家庭医療Ⅱ」）ただし、「総合診療Ⅱ」は道立羽幌病院でも研修が可能で、「小児科」と「救急」以外はすべて道立羽幌病院で行うことが可能です。

連携施設紹介

当プログラムには、特色ある6ヶ所の連携施設があります。
専攻医の希望を踏まえてローテートしていきます。



	医療機関名	所在地	総診Ⅰ 家庭Ⅰ	総診Ⅱ 家庭Ⅱ	内科	小児科	救急
基幹	北海道立羽幌病院	羽幌町	○	○*	○		
連携	留萌市立病院	留萌市		○	○		
連携	砂川市立病院	砂川市		○	○	○	○
連携	市立旭川病院	旭川市			○		
連携	北海道立江差病院	江差町		○			
連携	北海道立天売診療所	羽幌町	○				
連携	北海道立子ども総合医療・療育センター (コドモックル)	札幌市				○	

*家庭医療専門研修プログラムの「家庭医療Ⅱ」に該当し、「総合診療Ⅱ」は入りません

2021年4月現在 今後施設追加や領域の変更を行うことがあります

病院の概要

診療科 : (常勤総合診療医による診療) 内科、外科、整形外科、小児科
(出張医による診療) 整形外科、耳鼻咽喉科、眼科、産婦人科、皮膚科、泌尿器科
精神科、リハビリテーション科

病床数 : 120床 (稼働病床45床: 一般病床30床・地域包括ケア病床15床)

診療状況 : 1日平均患者数 (令和元年度) : 外来 176.3人、入院 32.6人
救急受入状況 (令和元年度) : 救急車 320人、休日・時間外患者総数 1,377人
平日時間外患者数平均 2.2人/日

診療圏域 : 4町1村 (留萌中部: 苫前町、羽幌町、初山別村 留萌北部: 遠別町、天塩町)
圏域人口 16,472人 (令和2年1月1日住民基本台帳) 高齢化率 40.8%



正面玄関



外来待合室



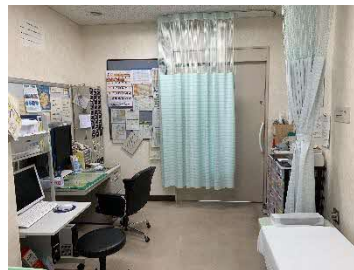
中央処置室



リハビリ室



救急処置室



救急外来診察室



ヘリポート



透析室



医局 (個人机)



医局



病棟 (ダイニング)



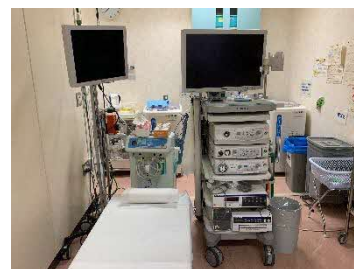
病棟



CT (64列)



MRI (1.5テスラ)



上下部内視鏡 (富士フィルム)



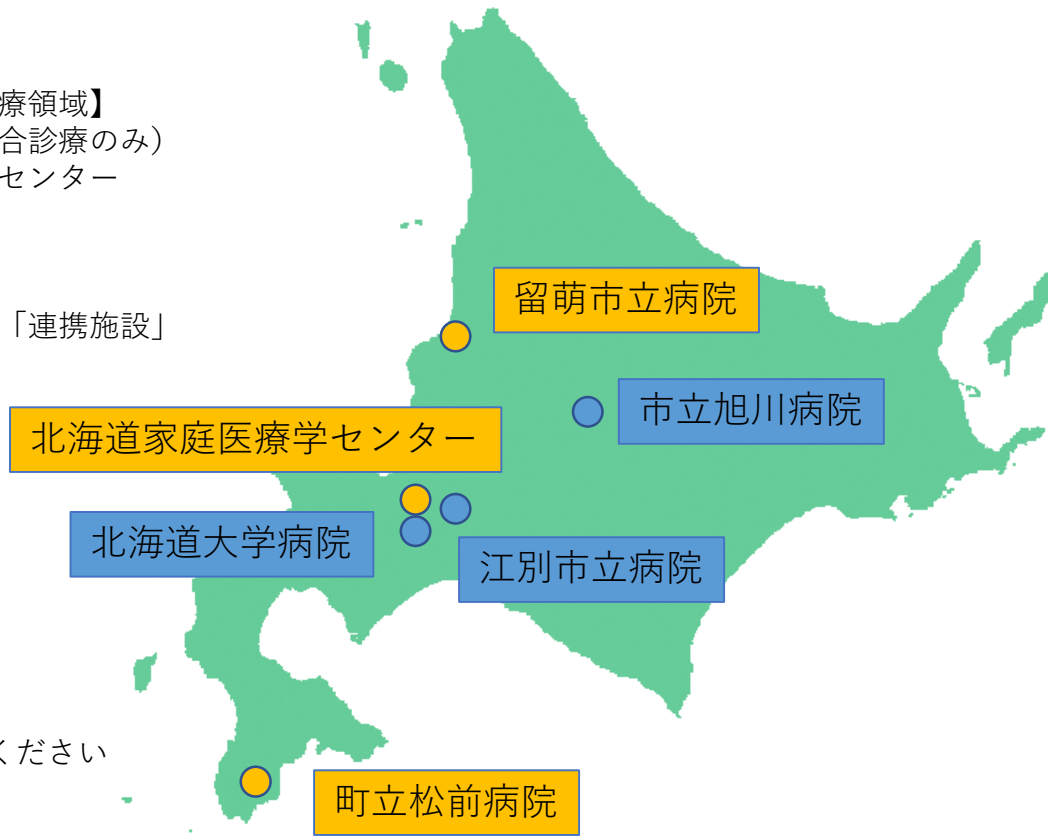
骨塩定量検査装置

医師公宅は、平成17年に現在の病院と同時期に建設されたアパートがあります (3DK/バス・トイレつき)
令和3年4月現在、専攻医や研修医・学生の増加に対応し、公宅および宿舎の新築について検討しています。

他のプログラムからの連携

他医療機関が基幹施設のプログラムの連携施設としても専攻医を受け入れています

- 【総合診療・家庭医療領域】
 - ・留萌市立病院（総合診療のみ）
 - ・北海道家庭医療学センター
 - ・松前町立松前病院
- 【内科】*いずれも「連携施設」
 - ・北海道大学病院
 - ・市立旭川病院
 - ・江別市立病院



希望される場合は、
各基幹施設に御相談ください

羽幌町の紹介

羽幌町まで
札幌から約3時間
旭川から約2時間



羽幌町ホームページより

羽幌町は、北海道の日本海側の北部に位置しています。世界有数の海鳥の繁殖地である天売島と、緑豊かな焼尻島の2つの離島を有しており、国定公園に指定されています。日本有数の漁獲量である甘エビをはじめ、タコやホタテなどの海産物、高級レストランに食材として提供されるサフォークとよばれる焼尻めん羊などが特産としてあります。特産物を活かした、海鮮丼や寿司などのグルメも多くあります。



平日はほぼ時間内で業務が終わるので、夕陽を眺めに行ったり、羽幌町や近隣町村の温泉に入りに行くこともできます。週末に天売島や焼尻島の離島に行くほか、北海道内各地に観光に行くことも十分可能です。



羽幌町マスコット
オロ坊

みなさんが来るのを
待ってるよ！



*これらの写真は、当院に研修に来た初期研修医の先生が撮影したものです

募集要項

【総合診療専門研修（家庭医療専門研修並行研修を含む）】

応募資格：専攻を開始することを希望する年の3月末時点までに

初期臨床研修を修了する見込みであるもの または 修了済みであるもの

募集人数：4名/年

ただし、総合診療専門研修と家庭医療専門研修を並行できる者は3名/年まで

研修期間：3年間

ただし、総合診療専門研修と家庭医療専門研修を並行する場合は4年間

【家庭医療専門研修（単独）】

応募資格：2017年3月までに初期臨床研修を修了済みであるもの

募集人数：3名/年

（総合診療専門研修応募時に同時に家庭医療専門研修を希望した者がいる場合、それに応じて定員数が変動する）

研修期間：3年間

【各研修共通】

応募方法：北海道立羽幌病院に下記資料を簡易書留で送付ください

①応募申請書

（総合診療）北海道立羽幌病院総合診療専門研修プログラム応募申請書

（家庭医療）北海道立羽幌病院家庭医療専門研修プログラム応募申請書

②履歴書

③医師免許証（コピー）

④臨床研修修了登録証（コピー）または終了見込証明書（原本）

（①は道立羽幌病院ホームページよりダウンロードしてください）

選考方法：北海道立羽幌病院または道立病院局（札幌市）において面接

待遇等

（北海道立羽幌病院勤務の場合）

身分：北海道職員

給与：「北海道病院事業職員の給与の種類および基準に関する条例」等に基づき支給

医師3年目：年収約1,500万円

*道立羽幌病院勤務中は羽幌町医師研究資金制度もあります

研究資金 100万円～（経験年次により異なります）

就業支度金（初年度限り ただし2年連続で勤務する場合のみ）100万円

医師5年目以下 の場合	羽幌病院での2年連続勤務		羽幌病院勤務1年のみ
	1年目	2年目	
研究資金	150万円	150万円	100万円
就業支度金	100万円	-	-

休日：土日・祝日（当番の場合あり）、夏季休暇（3日）、冬季職務専念義務免除（2日）
年次有給休暇（20日 採用年は採用月により異なります）

当直：週1回（月4回程度）

学会：1年間に北海道外1回・北海道内1回参加可能です

（連携施設勤務の場合）

連携施設の規定によります。

勤務期間が短期間の場合、北海道職員として派遣となる場合があります



シマエナガ

初期研修医の研修受け入れ

★初期研修における「地域医療研修」

外来診療を中心に、救急車対応から病棟診療まで継続した診療を研修します
 < 基幹臨床研修病院 >

札幌医科大学、旭川医科大学、金沢医科大学病院、砂川市立病院、市立旭川病院
 旭川赤十字病院、江別市立病院、留萌市立病院

初期研修医の地域医療研修の週間予定表

* 予定は1例です。同時期に研修する研修医の数などで変更します。

	月	火	水	木	金
朝	レクチャー	レクチャー	ネット学習会	ネット学習会	レクチャー
午前	総合診療外来	総合診療外来	総合診療外来	総合診療外来	当直明け 自由
午後	総合診療外来	特養回診	予防接種 多職種カンファ	訪問診療	
夜				宿直	

研修された研修医の声

* 研修後に書いていただいたブログの記事から抜粋しています。

どうして道立羽幌病院を地域研修先に選んだのか。去年羽幌で地域研修をした先輩の「絶対に羽幌。羽幌は絶対行くべき。地域研修といえば羽幌。」という言葉信じてでした…。しかし、半年以上前の偉大な先輩の言葉は忘れ去られ、出発の1週間前には「羽幌行くの嫌だなあ。知らない人ばかりだし、宿舎は綺麗なのかなあ…ご飯はどうしようかなあ…」なんて言葉ばかり出てしまい、決してモチベーションは高い状態ではありませんでした。

実際の研修は、朝のレクチャーから始まり、その後回診、午前は主に総合診療外来、午後は外来や病棟、訪問診療などを行うという日程でした。中でも一番勉強になったのは、毎日の総合診療外来。普段からやっている救急外来とは異なった、長期的戦略も考えなければいけない実際の外来診療です。一からガイドラインを見直しながら高血圧やCOPD、脂質異常症などの生活習慣病の治療戦略を立てるという経験は、これからの診療になくてはならない経験となりました。救急車対応（1日0~3件くらい）や当直、機会があれば病棟で主治医になることもあります。毎日疑問点が次々と出てきますが、その都度なんでも知っている優しい羽幌の先生方が丁寧に教えてくださいます。先生方は常にお互いに話し合ったり様々な方法で知識をアップデートしていて、私たち初期研修医の意見も聞き入れて一緒に考えてくださいます。貪欲な姿勢で、まさにチームで羽幌の健康を守っている姿はとても格好良かったです。

1日の仕事が終わると、美味しい羽幌メシを食べに行きます。なんていったって海鮮が美味しすぎます。何気なく入ったお店でもじゃ〇んに載っていいほどの美味しさです。小さな町ならではの、地元の人との会話も生まれます。

日中は適度な勉強時間をとりつつ毎日外来、病棟、訪問診療。夜は先生方と飲みに行ったり、一緒に研修をしていた学生さんと美味しい海鮮を食べに行ったり温泉に行ったりと、とても充実した毎日を送ることができました。憂鬱だった羽幌研修は、最終日には「羽幌最高。もう2,3ヶ月はいたい。」に変わるんだから、不思議です。

終わってみればとても短い1ヶ月の羽幌での研修でしたが、学んだこと、経験したこと、美味しく食べたこと、綺麗な羽幌周辺の景色の写真は私の宝物になりました。地域研修をどこにするか迷っている方は、「絶対に羽幌。羽幌は絶対行くべき。地域研修といえば羽幌。」ということで羽幌での研修をオススメしておきます。



医学生の研修受け入れ

- ★医学部5～6年の地域医療実習（札幌医科大学・旭川医科大学などのカリキュラム）
病院内の多職種による連携した医療を2週間研修します
- ★医学生の早期体験実習など（札幌医科大学・旭川医科大学などのカリキュラム）
大学により決められたカリキュラムの研修を行います
- ★そのほかの医学生の実習（自主的なものなど）
学年や実習内容の希望に応じて対応します

医学部5～6年の地域医療実習（例：旭川医科大学医学部5年のカリキュラム）

		月	火	水	木	金
1週目	朝		レクチャー	ネット学習会	ネット学習会	レクチャー
	午前	移動	内科予約外来	院内薬局	リハビリ	総合診療外来
	午後	院内案内	特養回診	多職種カンファ	身体所見	訪問診療
2週目	朝	レクチャー	レクチャー	ネット学習会	ネット学習会	レクチャー
	午前	放射線科	臨床検査科	内視鏡検査	カルテ付添実習	小児科外来
	午後	透析室	総合診療外来	予防接種	町内観光	移動

研修された学生さんの声

地域医療実習でお世話になりました。

普段の大学病院での実習とは異なり、薬剤師、放射線技師、理学療法士、管理栄養士など、医療多職種の方と実際に仕事を体験する貴重な機会をいただきました。

多職種カンファレンスでは、患者さんの性格や希望、家族の意向、施設との相性など、きめ細やかに対応する意見が飛び交っている様子が印象的で、一人の患者さんを医療チーム全体でみるという意識が非常に高いと感じました。

また、医療スタッフと話をする中で、羽幌地区の高齢化に伴う医療福祉の問題、無医島、無医地区の問題など地域医療の実態とそれを支える医療スタッフの熱意を感じとることができました。

羽幌町見学の時間では、特産である甘エビとタコの海鮮丼を食べ、サンセットビーチに足を運び、温泉にも浸かってきました。夜には地元の美味しい居酒屋に連れ出していただき、羽幌町の魅力を深く知ることができました。

当院での学び、羽幌町とのご縁を今後の医療者人生の中で大切にしていきたいと思っています。本当にありがとうございました。





病棟より日本海を望む（写真左の並んでいる島が、左から天売島、焼尻島 写真右の島が利尻島）



Facebook



livedoor *Blog* ブログ



お問い合わせ（Googleフォーム）



北海道立羽幌病院

〒078-4197 北海道苫前郡羽幌町栄町110

TEL：0164-62-6060 FAX：0164-62-6050

2021年4月作成